



エダクタ・キット

Multi-Pro® 5800 ターフ・スプレーヤ

モデル番号41612-シリアル番号 311000001 以上

取り付け要領

エダクタ・キットは、集約的で高度な管理を受けている公園、ゴルフ場、スポーツフィールドその他の芝生において、薬剤を散布するにあたっての薬剤の混和を補助することを主たる目的として製造されております。このキットは、芝生に液剤を散布するための専用装置のための補助装置（アタッチメント）であり、そのような業務に従事するプロのオペレータが運転操作することを前提として製造されています。

この製品は、関連するEU規制に適合していません； 詳細については、DOC シート（規格適合証明書）をご覧ください。

注 モデル番号 41604（プロコントロール XP 散布キット）、41612（エダクタ・キット）、41613（電動ホースリール・キット）、41614 タンクリンス・キットを取り付ける場合には、これらの関連部分も同時に、マニホールドバルブ・アセンブリに取り付けることをお勧めします。

この説明書を読んで製品の運転方法や整備方法を十分に理解してください。オペレータや周囲の人の人身事故や製品の損傷を防ぐ上で大切な情報が記載されています。製品の設計製造、特に安全性には Toro 社において常に最大の注意を払っておりますが、この製品を適切かつ安全に使用するのをお客様の責任です。

弊社Toro のウェブサイトwww.Toro.com で製品・アクセサリ情報の閲覧、代理店についての情報閲覧、お買い上げ製品の登録などを行っていただくことができます。

整備について、またToro 純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店またはToro カスタマーサービスにおたずねください。お問い合わせの際には、必ず製品のモデル番号とシリアル番号をお知らせください。図 1にモデル番号とシリアル番号を刻印した銘板の取り付け位置を示します。

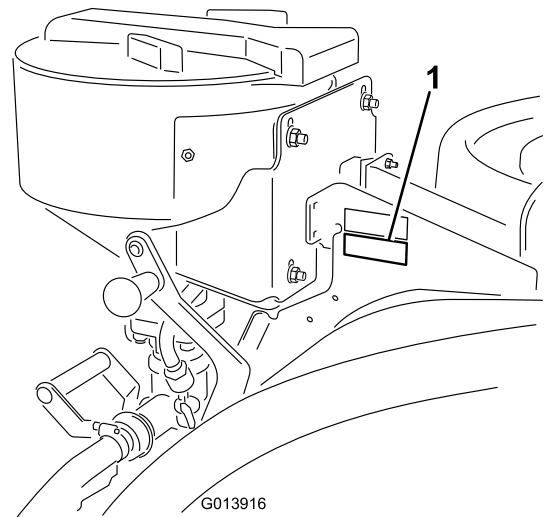


図 1

1. 銘板取り付け位置

モデル番号 _____

シリアル番号 _____

安全について

この説明書では、危険についての注意を促すための警告記号図 2 を使用しております。死亡事故を含む重大な人身事故を防止するための注意ですから必ずお守りください。



図 2

1. 危険警告記号

この他に2つの言葉で注意を促しています。重要「重要」は製品の構造などについての注意点を、注はその他の注意点を表しています。

▲ 警告

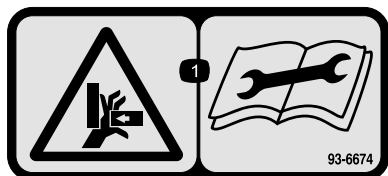
この散布装置で取り扱う農薬は人体や動植物、土壌などに危険を及ぼす可能性があるため取り扱いには十分注意すること。

- ・ 自分自身の安全を守るために、農薬を取り扱う前に、容器に張ってあるラベルや安全データシートなど取り扱い上の注意をよく読んで理解し、薬剤メーカーの指示を守る。たとえば、保護めがね（ゴーグル）、手袋など、薬剤との接触を防止し危険から身を守ることで適切な保護対策を講じる。
- ・ 散布する薬剤は一種類とは限らないので、取り扱っているすべての薬剤に関して注意事項を必ず確認する。
- ・ 上記安全確保に必要な情報が手に入らない場合には、この装置の運転を拒否すること！
- ・ 散布装置の取り扱いを開始するまえに、その装置を前回使用したあとに薬剤メーカーの指示に従って3回のすすぎ洗いや必要な中和処理が行われたかを確認すること。
- ・ 十分な量の水と石鹼を身近に常備し、薬剤が皮膚に直接触れた場合には、直ちに洗い流すこと。

安全ラベルと指示ラベル

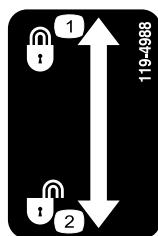


以下のラベルや指示は危険な個所の見やすい部分に貼付してあります。読めなくなったものは必ず新しいものに貼り替えてください。



93-6674

1. 手を挟まれる危険：整備作業前にマニュアルを読むこと。



119-4988

1. ロック
2. ロック解除

取り付け

付属部品

すべての部品がそろっているか、下の表で確認してください。

手順	内容	数量	用途
1	エダクタバルブ・アセンブリ	1	エダクタ・バルブを取り付けます。
	Oリング	1	
	ボルト(M8 -1.25 x 146 mm)	4	
	ブラケット(他のキットが取り付け済みの場合、このブラケットも取り付け済みの場合があります)	1	
2	サポートフレーム・アセンブリ	1	フレームを組み立てます。
	ロックナット(5/16 インチ)	1	
	バックプレート・アセンブリ	1	
	クレードル・アーム(右)	1	
	クレードル・アーム(左)	1	
	ブッシュ(小)	2	
	ピボットピン	2	
	ジャム・ナット(3/8 インチ)	2	
	ハンドル	2	
	ボルト((3/8 x 1-1/4 インチ))	2	
	固定ネジ	2	
	ヘアピン	2	
平ワッシャ	2		
3	スプリング	2	ラッチ関連部材を取り付けます。
4	エダクタ	1	エダクタを取り付ける。
	ハンドル	1	
	ボルト	2	
	スプリング・クランプ	1	
	ボルト(#10-24 x 1/2 inch)	2	
	ロックナット(#10-24)	2	
	ボルト(3/8 x 1 インチ)	4	
ロックナット((3/8 インチ))	4		
5	バルクヘッド, S93	1	タンクの準備を行います。
	大きいOリング	1	
	ロックリング	1	
	リテーナフォーク	1	
	R クランプ	1	
	キャリッジボルト(5/16 x 1 インチ)	1	
	ロックナット(5/16 インチ)	1	
	前ホース・アセンブリ	1	
6	給液ホース・アセンブリ	1	給液ホースを取り付ける。
	ホース・クランプ	1	
7	スイッチ(エダクタ)	1	ダッシュ・スイッチを取り付ける。
	10 A ヒューズ	1	
8	吸い込みランスとホース	1	取り付けを完了する

注 前後左右は運転位置からみた方向です。

1

エダクタ・バルブを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	エダクタバルブ・アセンブリ
1	Oリング
4	ボルト(M8 -1.25 x 146 mm)
1	ブラケット(他のキットが取り付け済みの場合、このブラケットも取り付け済みの場合があります)

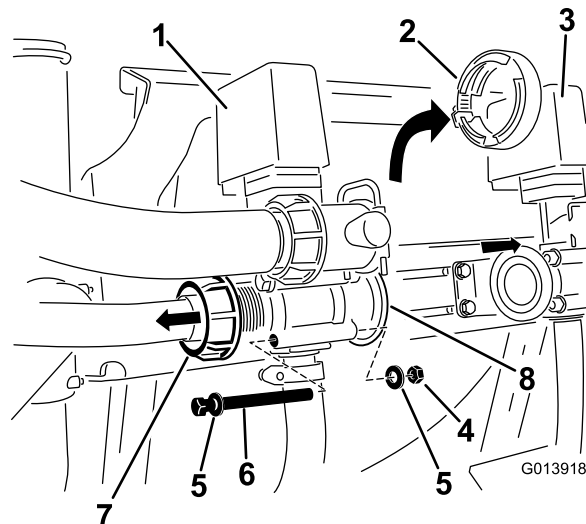


図 4

手順

1. 車体の後部に行き、ブームバルブ取り付けブラケットについているブームバルブ・アセンブリを探し出す。
2. ブームバルブ・アセンブリを取り付けブラケットに固定しているボルトをゆるめる(外さないこと)(図 3)。

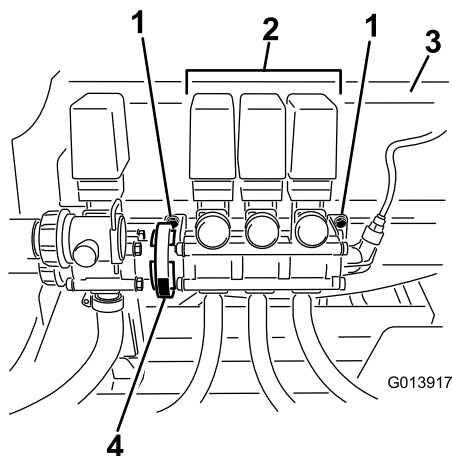


図 3

1. ブームバルブ・アセンブリを 3. ブーム取り付けブラケット固定しているボルト
2. ブームバルブ・アセンブリ 4. ワームクランプ

3. 既存のワームクランプを攪拌バルブの右側にゆるめ、バルブ・アセンブリを攪拌バルブから離す。ガスケットは捨てないこと。
4. 攪拌バルブ・アセンブリに攪拌ホースを固定しているフライナットを探し出す。フライナットをゆるめて、バルブボディをゆるめるためのスペースを作る(図 4)。

1. 攪拌バルブ
 2. ワームクランプ
 3. ブームバルブ・アセンブリ
 4. ロックナット(既存)
 5. ワッシャ(既存)
 6. ボルト(既存)
 7. フライナット
 8. アダプタ
5. 攪拌バルブのボディをアダプタに固定している締結具をゆるめる。外したロックナットとワッシャは再利用するので捨てないこと。
注 エダクタ・キットを外した場合のことを考えて、長いボルトも保存するとよいでしょう。
 6. バルブボディからアダプタを外す(図 4)。
 7. 付属部品の中からエダクタバルブを探し出す。このバルブを攪拌バルブの右側に直列(インライン)に取り付ける(図 5)。
注 エダクタバルブをはめるまえに、攪拌バルブの中に入っている既存のOリングがきちんと入っているのを確かめてください。

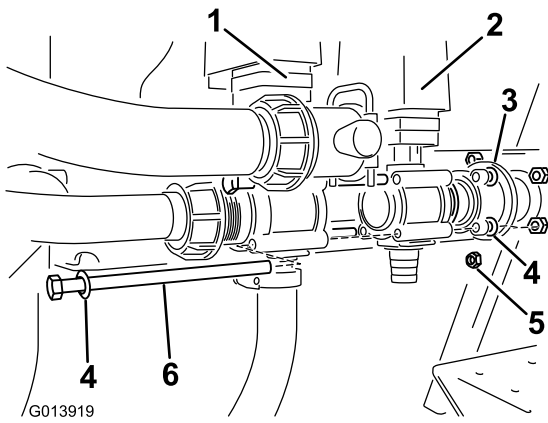


図 5

- | | |
|------------|---------------------------|
| 1. 攪拌バルブ | 4. ワッシャ(既存) |
| 2. エダクタバルブ | 5. ロックナット(既存) |
| 3. アダプタ | 6. ボルト(M8 -1.25 x 146 mm) |

8. 付属部品に入っている O リングを、エダクタバルブの開口側に取り付ける (図 6)。

注 液もれが発生しないように、Oリングは必ず、正しく取り付けてください。

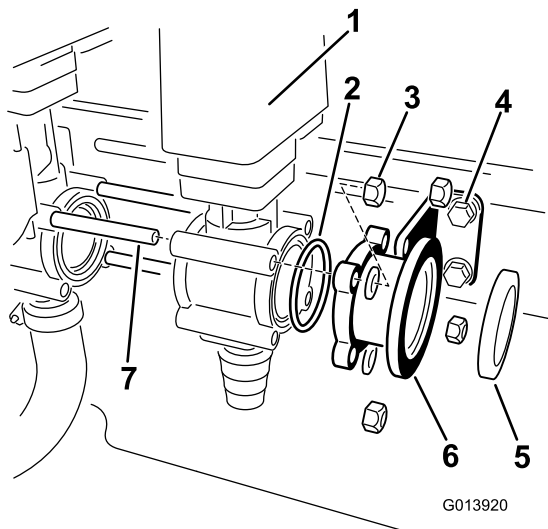


図 6

- | | |
|---------------|---------------------------|
| 1. エダクタバルブ | 5. ガasket(既存) |
| 2. Oリング | 6. アダプタ(既存) |
| 3. ロックナット(既存) | 7. ボルト(M8 -1.25 x 146 mm) |
| 4. ブラケットと締結具 | |

9. 付属部品の中から、長いボルト4本 (M8 -1.25 x 146 mm) を探し出す。長いボルト4本のうちの2本に、先ほどはずしたワッシャを1枚ずつ取り付ける。

10. 機体の左側から取り付けブラケットを通して、攪拌バルブとエダクタバルブのバルブボディの上の穴と下の穴 (レールに近いほうの穴) に長いボルト2本を通す。

11. バルブ・アセンブリの、ブラケットに取り付けられていない方の穴を使って、ボルトとワッシャでバルブ・アセンブリを固定する。

12. 先ほど外したアダプタを、エダクタバルブの開口側に挿入し、中に露出しているボルトに通す。

13. 取り付けレールにブラケットを取り付ける。ブラケットは、ボルト2本とロックナット2個で仮止めしておく。

注 ブラケットは、他のキットと共に既に取り付け済みの場合があります。

14. 取り付けレールに一番近いボルトのねじ山部分にブラケットを移動させる。ロックナット2個を使用して、バルブ・アセンブリにブラケットを固定する。この時点ではまだ本締めを行わないこと。

15. 残りのボルトそれぞれにワッシャを取り付ける。残っているロックナット2個で、アセンブリを固定する。この時点ではまだ本締めを行わないこと。

注 取り付けレールにブラケットを止めているボルトはまだ仮止め状態であり、ブラケットをレール上で移動させられなければならない。

16. Oリングシールがきれいにはまるように、ボルトを十文字パターンですこしずつ締め付ける (液もれをおこさないように)。バルブ同士を組み合わせる時にブラケットで調整できるようになっていることを確認する (図 7)。最大トルク ; 24~30 ft-lbs (271~339 Nm=0.28~0.35 kgm)

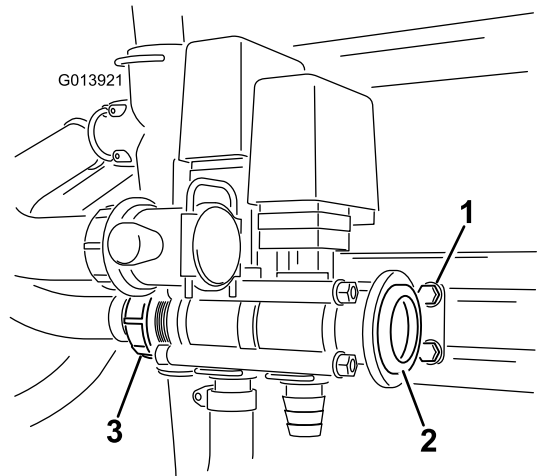


図 7

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. ブラケットの締結具 | 3. フライナット |
| 2. ガasket | |

17. 攪拌バルブのボディのねじ山にフライナットを取り付けて締め付ける。

18. ブラケットの締結具を締め付けて、取り付けレールに固定する。
19. アダプタにガスケットを入れ、ゆるめてあったワームクランプをアダプタのボディに取り付ける (図 7)。
20. ブームバルブ・アセンブリを新しいエダクタバルブの方へ戻し、二つのアダプタがガスケットを間に挟んで面一になるようにする (図 8)。

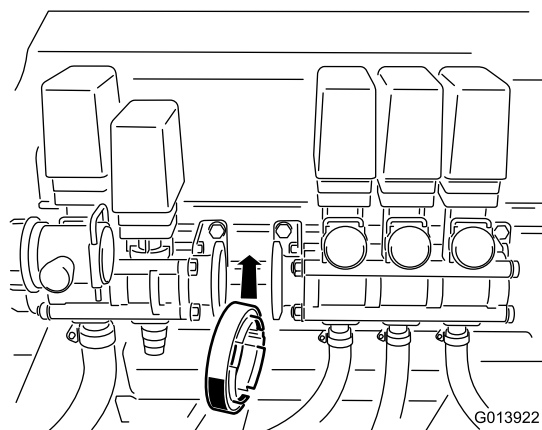


図 8

21. ワームクランププラスチックをアダプタの上に戻し、締め付けて二つのアダプタを密着させる。
22. メインのワイヤハーネスから Eductor というラベルのついたワイヤを探し出す。ラベルのついたワイヤを使って、エダクタバルブをメインハーネスに接続する。

2

フレームを組み立てる

この作業に必要なパーツ

1	サポートフレーム・アセンブリ
1	ロックナット (5/16 インチ)
1	バックプレート・アセンブリ
1	クレードル・アーム (右)
1	クレードル・アーム (左)
2	ブッシュ (小)
2	ピボットピン
2	ジャム・ナット (3/8 インチ)
2	ハンドル
2	ボルト ((3/8 x 1-1/4 インチ))
2	固定ネジ
2	ヘアピン
2	平ワッシャ

手順

1. 蓋ストoppaをストラップに固定しているロックナットを外す。蓋ストoppaを外す。外した部品をなくさないこと。
2. 付属部品の中から、メインサポート・フレームを探し出す。
3. フレームをタンク固定バンドに取り付ける；フレームの下穴をタンク固定ベルトの側面 (タンクの側面) から突き出しているボルトに合わせ、上穴はタンク上面に突き出ているボルトに通す (図 9)。

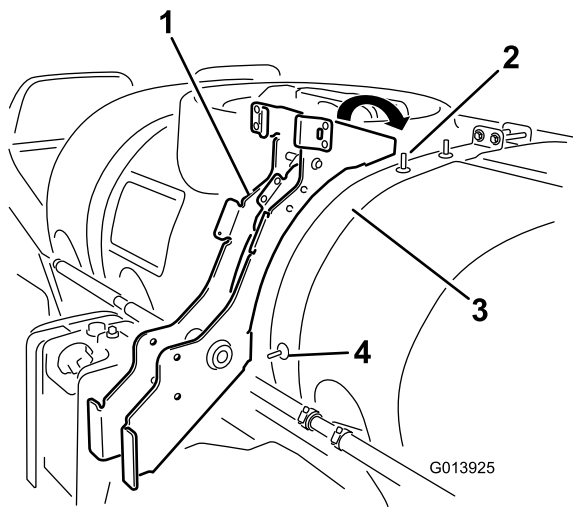


図 9

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1. メインサポートフレーム・ア
センブリ | 3. タンク固定ベルト(後側) |
| 2. 突き出しているボルト(上
部) | 4. 突き出しているボルト(側
部) |

4. 下側のボルト (タンクから突き出てフレームの穴に通っている) にロックナットを取り付けて固定する (図 10)。

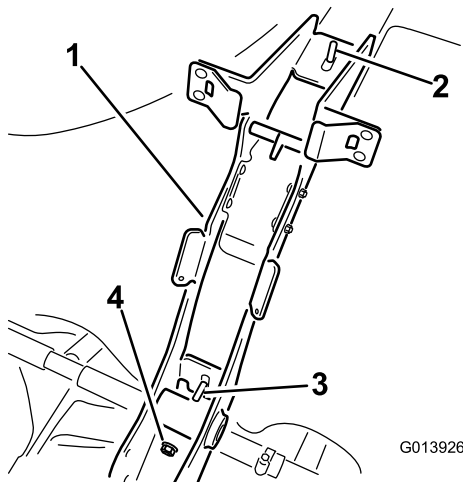


図 10

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1. メインサポートフレーム・ア
センブリ | 3. 突き出しているボルト(側
部) |
| 2. 突き出しているボルト(上
部) | 4. ロックナット (5/16 インチ) |

5. 先ほど取り外した蓋ストoppaを、タンク固定ベルト上面から突き出ているボルトに取り付ける。メインタンクの蓋を開けたときに、蓋を捕捉できるように弓部を前向きに取り付けること。
6. 蓋ストoppaとエダクタフレームの上部とをタンク・アセンブリに固定する；先ほど取り外したロックナット2個を使用する。14-18

ft-lb (19-24 Nm=1.9-2.5 kg.m) にトルク締めする。

7. エダクタクレードルをフレームに組み付ける。

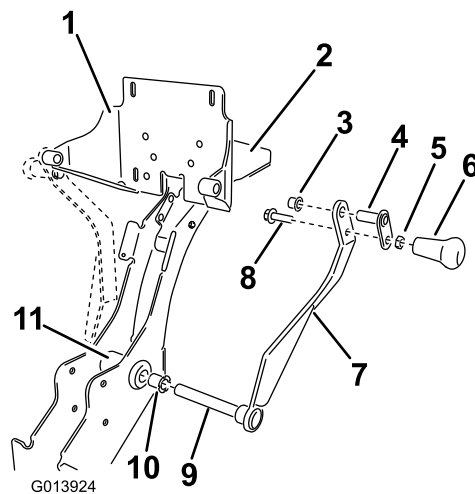


図 11

- | | |
|--------------------------|-------------------------------|
| 1. バックプレート・アセンブリ | 7. クレードル・アーム(右) |
| 2. メインサポートフレーム・ア
センブリ | 8. ボルト((3/8 x 1-1/4 イン
チ)) |
| 3. ブッシュ(小) | 9. クレードル・アームの軸 |
| 4. ピボットピン | 10. ブッシュ(大) |
| 5. ジャム・ナット (3/8 インチ) | 11. ピボット・ハウジング |
| 6. ハンドル | |

- A. まず、フレームに右側クレードル・アームを取り付ける。軸の長い方が右側クレードル・アームである。
- B. ヒンジ・シャフトに軸を差し込む。
- C. フレームの反対側に出ている軸に、左アームを仮止めする。
- D. バックプレート・アセンブリの外側ヒンジの穴にブッシュを取り付ける。
- E. 各アームの上側穴の間にバックプレート・アセンブリを戻す。
- F. アームの上穴とヒンジの穴に、バックプレート・アセンブリのブッシュとともにピボットピンを通す。
- G. 各アームの下穴にハンドルを取り付ける。ボルト (3/8 x 1-1/4 インチ) およびジャム・ナット (3/8 インチ) で固定する。
- H. 反対側のアームでも同じ作業を行う。
- I. 左アームの下側ヒンジ部に固定ねじを取り付ける (図 12)。後でクレードル・

システムの調整を行うので、ねじは仮止めしておくこと。

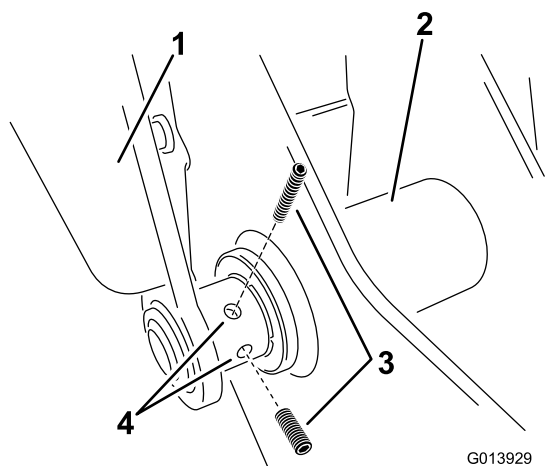


図 12

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. クレードル・アーム(左) | 3. 固定ネジ |
| 2. ピボットハウジング | 4. クレードル・アームの穴 |

3

ラッチ関連部材を取り付ける

この作業に必要なパーツ

2	スプリング
---	-------

スプリングを取り付ける

1. フレーム・アセンブリの側面にあるアングルタブの下端についている穴にスプリングを取り付ける (図 13)。

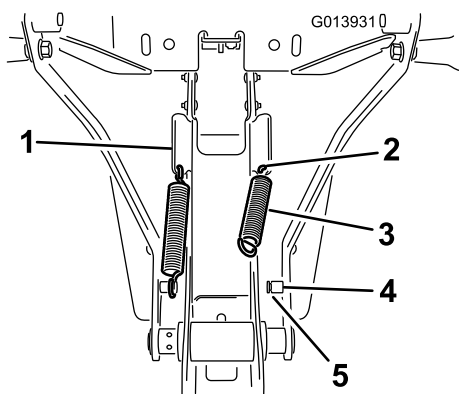


図 13

- | | |
|-----------|------|
| 1. アングルタブ | 4. 柱 |
| 2. タブの穴 | 5. 溝 |
| 3. スプリング | |

2. スプリングの一端を穴に引っ掛ける。適当な工具でスプリングを引っ張って、他端をクレードル・アームから突き出ている柱にセットする (図 13)。
3. スプリングの端部が柱の溝に適切にはまっていることを確認する (図 13)。
4. 反対側にも同じ作業をする。
5. 固定ネジ (2本) を締める。

トングの位置を調整する

クレードル・アセンブリを上「移動」位置に動かしてトングの調整を行う。

- ・ ハンドル部を持ってアセンブリを持ち上げながら少しタンク側に倒す。
 - ・ クロスバーの下にトングを通す (溶接されているタブがフレーム・アセンブリの上部にくるように)。
 - ・ アセンブリをタンク側に倒す。
1. プラスチック製のストップがスプリングのタブに接触していることを確認し、クレードルのバックプレート・アセンブリに力をかけて、スプリングタブを途中まで縮める (図 14)

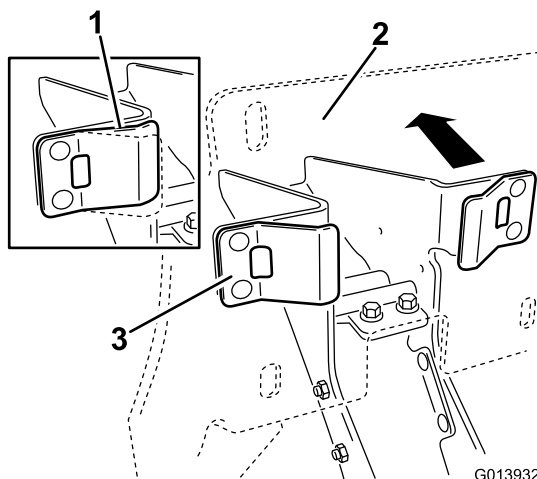


図 14

- | | |
|------------------------------|------------|
| 1. スプリングタブ(押された状態) | 3. スプリングタブ |
| 2. バックプレート・アセンブリ (透明に描かれている) | |

2. バックプレートへの圧力を保持したまま、トングを手前にスライドさせてトングプレートのリップをクロスバーに接触させる (図 15)。

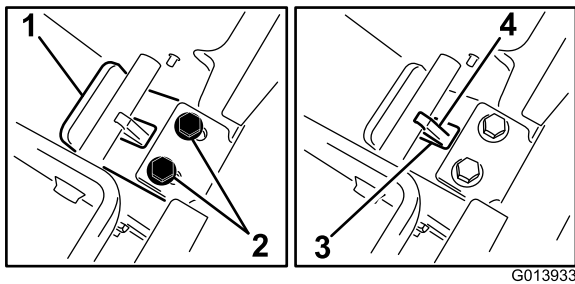


図 15

1. トングプレートのリップ
2. 締結具
3. プレートのスリット
4. 溶接されたタブ

3. トングの締結具を締めて固定し、固定が完了したらバックプレートにかけていた力を抜く。

クレードルにガタがあるかどうかをチェックする。フレーム・アセンブリにガタなく保持されていればよい。エダクタをロック位置に取り付けたあとでもういちどこの調整を行ってロック位置の調整を行うことができる。

4

エダクタを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	エダクタ
1	ハンドル
2	ボルト
1	スプリング・クランプ
2	ボルト(#10-24 x 1/2 inch)
2	ロックナット(#10-24)
4	ボルト(3/8 x 1 インチ)
4	ロックナット((3/8 インチ))

手順

1. 付属部品の中から、ハンドル・アセンブリとスプリングクランプを探し出す。
2. 付いているボルト 2 本を探し出して、ゆるめる。エダクタにハンドル・アセンブリを取り付け、ボルト2本で固定する(図 16)。

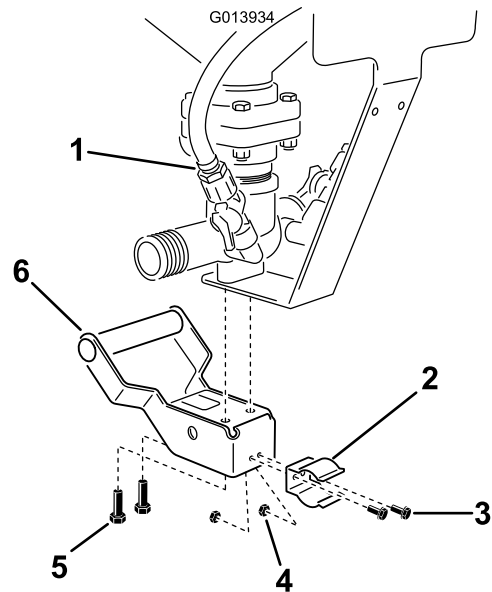


図 16

1. エダクタ
2. スプリングクランプ
3. ボルト(#10-24 x 1/2 inch)
4. ロックナット(#10-24)
5. ボルト
6. ハンドル

3. クレードルを下位置にセットする。
4. エダクタ・アセンブリの取り付けプレートについている穴を、クレードル・アセンブリのバックプレートの長穴に合わせる(図 17)。ボルト4本(3/8 x 1 インチ)とロックナット(3/8 インチ)でエダクタを取り付ける。この時点ではまだ本締めを行わないこと。

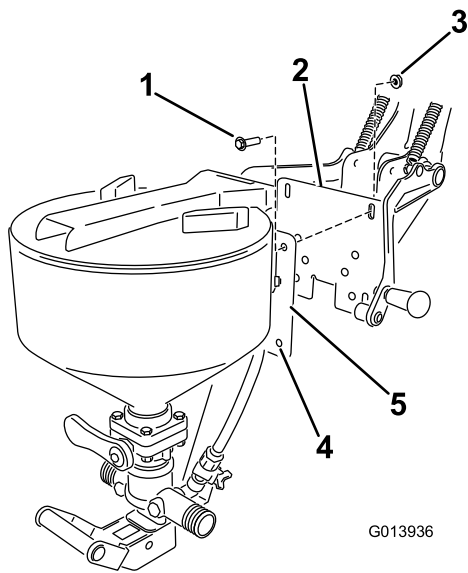


図 17

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1. ボルト (3/8 x 1 インチ) | 4. 穴(エダクタ・アセンブリ取り付けプレート) |
| 2. バックプレート | 5. エダクタ・アセンブリ取り付けプレート |
| 3. ロックナット((3/8 インチ)) | |

締結具は、エダクタを最初に移動位置にセットしたときに一緒に移動できる程度に仮止めしておく。これによって、この先の調整ができるようになる。

5. クレードル・アセンブリに入っているエダクタを注意深く持ち上げて移動位置にセットする：

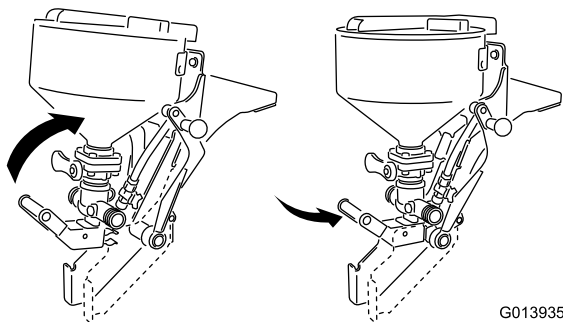


図 18

- A. 下側のハンドルを持ってエダクタを持ち上げながら少しタンク側に倒す (図 18)。
- B. クロスバーの下にトングを通す (溶接されているタブがフレーム・アセンブリの上部にくるように) (図 18)。
- C. 次に、アセンブリをタンク側に倒してスプリング・クランプとフレーム下部の大きいピボット・ハウジングとを整列させる (図 18)。

- D. そして、その位置から押して、クランプをピボットハウジングにはめる (図 19)。

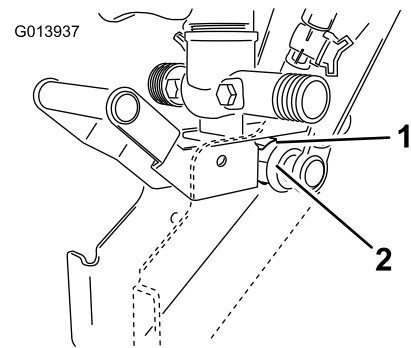


図 19

1. スプリング・クランプ 2. ピボット・ハウジング

6. クレードルのバックプレート上のエダクタの高さを点検し、必要に応じて調整する。エダクタをクレードルに固定する締結具の本締めを行う。27~33 ft-lb (36~45 Nm=3.7~4.6 kg.m) にトルク締めする。
7. タンク固定ベルト上のエダクタ・アセンブリの全体の位置を点検する。エダクタは移動位置で真っ直ぐに立っていることが必要である。フレーム・アセンブリの下部のロックナットをゆるめてタンクに固定する。外さないこと。必要に応じて位置を調整し、ロックナットを締め付ける。ストラップを必ずタンクに固定すること。

5

前ホースを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	バルクヘッド, S93
1	大きいOリング
1	ロックリング
1	リテーナフォーク
1	R クランプ
1	キャリッジボルト (5/16 x 1 インチ)
1	ロックナット (5/16 インチ)
1	前ホース・アセンブリ

タンクに穴を開ける

1. 図 20 に示されているタンク前部の位置を探し出す。円の中心にあるドリルマークを探し出す。

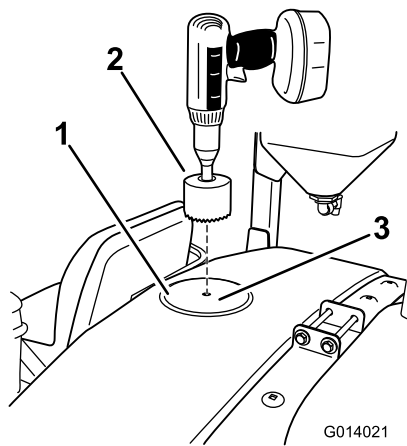


図 20

- | | |
|--------------|------------------|
| 1. 円(鑄込パターン) | 3. ドリルポイント(円の中心) |
| 2. 円形ノコで穴を切る | |

2. 3-5/8 inch (9 cm) の円形ノコを使ってマークのところに穴を切る(図 20)。バルクヘッドをはめるために、穴を少しだけ拡大する必要がある。
3. できた穴の縁を滑らかに仕上げる。穴を切る際にタンク内部に落ちたごみや樹脂の粉は完全に取り除く。

バルクヘッドを取り付ける

1. 付属部品の中からバルクヘッド (S93) を探し出す。
2. メインタンクの蓋を開けてフィルタスクリーンを取り外す。
3. 図 21 のようにバルクヘッドを取り付ける。

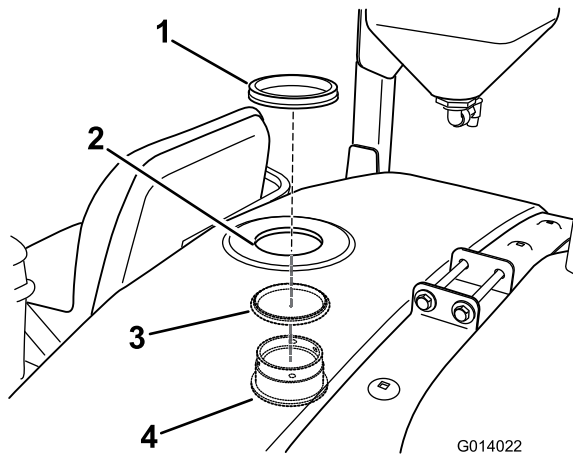


図 21

- | | |
|------------|-----------|
| 1. ロックリング | 3. Oリング |
| 2. 先ほど開けた穴 | 4. バルクヘッド |

A. バルクヘッドのベースにOリングを取り付ける。

- B. バルクヘッドとOリングをタンクの内側から外側に向けて、先ほどの穴に取り付ける。
- C. プラスチック製のフライナットを使ってバルクヘッドをタンクに固定する。

Rクランプを取り付ける

1. タンクの前ベルト(左側部分)を動かす。Rベルトをタンク上部に固定している締結具を外して保管する。外した部品をなくさないこと。
2. ベルトをずらして、ベルトを左側に1/4ほど下がったところにある穴に新しいボルトを入れる(図 22)。

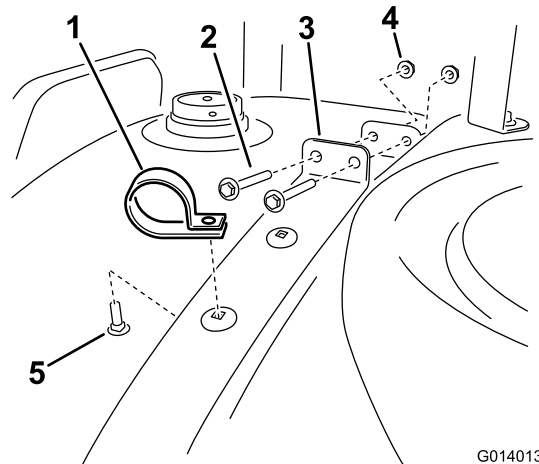


図 22

- | | |
|----------|--------------------------|
| 1. Rクランプ | 4. ロックナット |
| 2. 長いボルト | 5. キャリッジボルト(5/16 x 1インチ) |
| 3. 前側ベルト | |

3. ベルトをタンク上の元の位置に戻す。先ほど外したボルトを使って、ベルトをタンクに固定する(図 22)。ストラップを必ずタンクに固定すること。締めすぎないように注意すること。
4. 先ほど取り付けしたボルトのねじ山にRクランプを取り付ける。

取り付け

1. 90度フィッティングのついたホースの端部を、先ほど作ったバルクヘッドの上部(タンク前部)に取り付ける(図 23)。

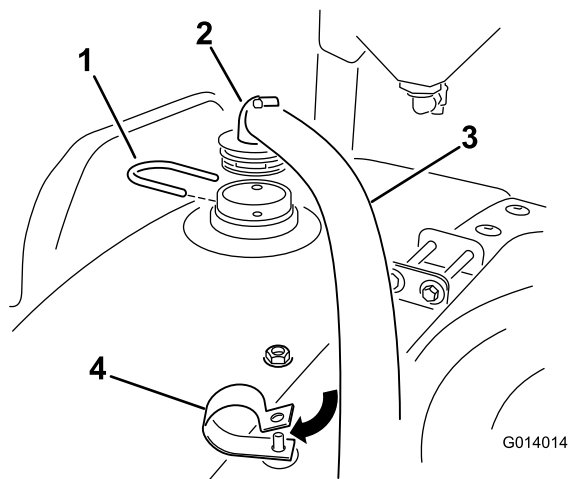


図 23

- 1. リテーナフォーク
- 2. フィッティング
- 3. 前ホース・アセンブリ
- 4. R クランプとロックナット (5/16 インチ)

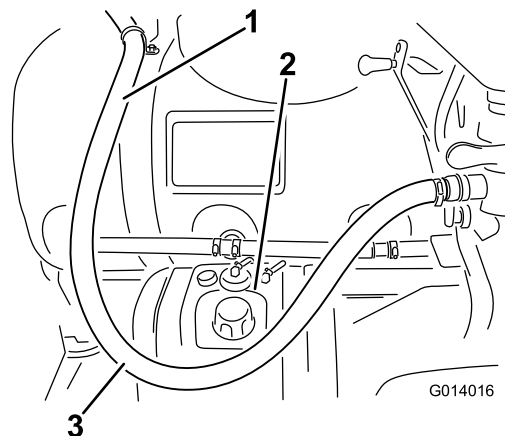


図 25

- 1. 前ホース
- 2. タンク
- 3. エダクタが降下できる十分なたるみ

2. 図 23 のようにフォークでタンクに固定する。
3. ホースのもう一方の端部をRクランプに通してエダクタまで引き込む。R クランプのボルトにロックナットを取り付けて指締め（仮止め）しておく（図 23）。これによって、この先の調整ができるようになる。
4. ホースを機体後方に引いて、エダクタ・アセンブリのバルブの前向きの開口部に接続できるようにする。

エダクタに接続する

1. ホースを、エダクタのバルブの前向きの開口部に接続する（図 24）。プラスチック製のナットを使ってホースを固定する。

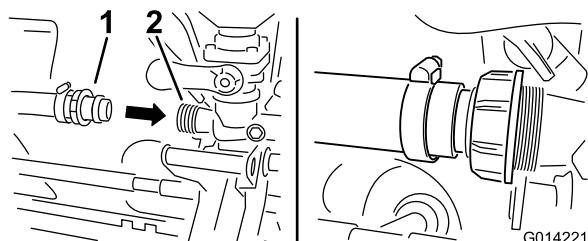


図 24

- 1. ホースの開口端
- 2. エダクタのねじ山付き開口部

2. フライナットをエダクタのねじ山に取り付けて締め付け、ホースを固定する（図 24）。
3. ホースの配線を確認する。ホースに 図 25 のように十分なたるみがあること（エダクタを降下させられる）を確認する。

6

給液ホースを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	給液ホース・アセンブリ
1	ホース・クランプ

エダクタに接続する

1. 付属部品の中から給液ホースを探し出す。一文字コネクタ（鋸歯状突起付き）、プラスチック製ナットとホースクランプのついた側の端部を見つける。
2. これらのパーツが付いているホース端部を、エダクタのバルブの後向きの開口部に接続する（図 26）。プラスチック製のナットを使ってホースを固定する。

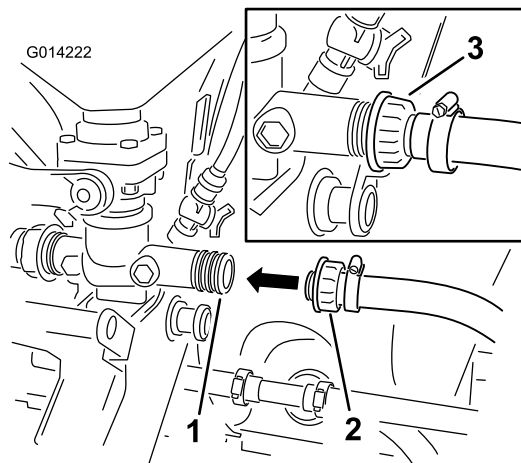


図 26

- 1. ホースの開口端
- 2. エダクタのねじ山付き開口部
- 3. フライナットを締めた状態

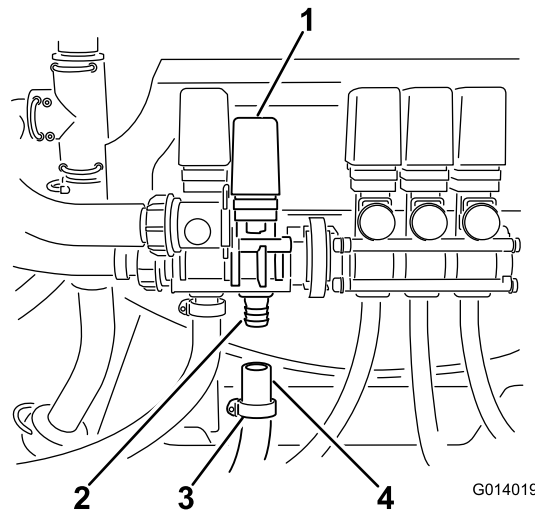


図 28

- 1. エダクタバルブ
- 2. バーブ
- 3. ホース・クランプ
- 4. ホース端部

バルブ・アセンブリを接続する

1. 給液ホースの開口端を機体後部へ引く。ホースは、ポンプを通り越して、逃がしバルブの下を通してバルブ・アセンブリの方へ引き返す（図 27）。

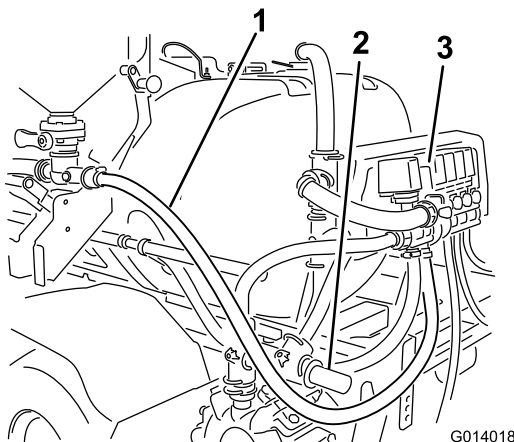


図 27

- 1. 後ホース
- 2. 逃がしバルブ
- 3. エダクタバルブ

2. 攪拌ホースの下ではあるが、中央ブームの左側のマウントよりは高い位置に保持しつつ、ホースを上へ引き上げてエダクタバルブ・アセンブリにまで到達させる（図 27）。
3. ホースクランプ（1個）をゆるめてホースに通す（図 28）。

4. ホースの開口端部を、エダクタバルブの下向きのバーブ（鋸歯状接続部）に接続する。

注 ホースフィッティングの端部（鋸状になっている）に植物油などを塗っておくと楽に接続することができるでしょう。

5. バーブの上にホースクランプを移動させてホースをフィッティングに固定する。

7

ダッシュ・スイッチを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	スイッチ(エダクタ)
1	10 A ヒューズ

手順

1. ダッシュボード上で、エダクタ・スイッチ用のプラグを探し出す（図 29）。イグニッション・キーから2番目のプラグ（穴）がそれである。

8

取り付けを完了する

この作業に必要なパーツ

1	吸い込みランスとホース
---	-------------

手順

吸い込みランスとホースは後のために保管する。エダクタキットの使用に関する書類を読み、読後に保管する。

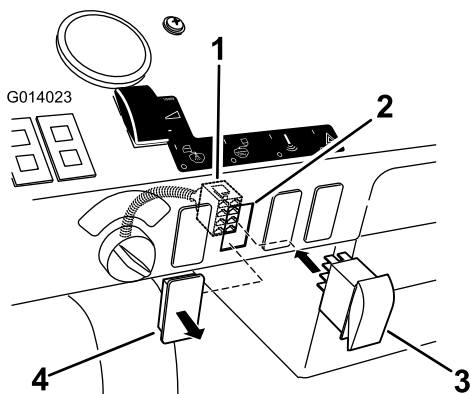


図 29

1. エダクタ用のコネクタ(メインハーネスから)
2. ダッシュボード上の穴
3. ダッシュボード・スイッチ
4. プラグ

2. ダッシュボード上のプラグを外して穴にする (図 29)。
3. ダッシュボードの下から、メインハーネスのうちの eductor というレベルのついているボックス型コネクタを探し出す。コネクタを縛り付けているタイを切断してコネクタをダッシュボードの穴にセットする。
4. ダッシュボードを通してボックスコネクタにスイッチを取り付ける (スイッチについている LED が上位置になるように) (図 29)。
5. スイッチをダッシュボードに押し込むようにして取り付ける。
6. ヒューズブロックに 10 A ヒューズを取り付ける (図 30)。

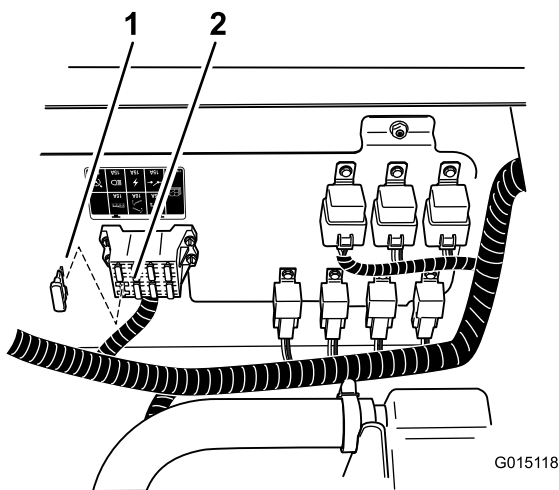


図 30

1. ヒューズブロック
2. 10 A ヒューズ

7. 散布装置のオペレーターズマニュアルに従って、攪拌バイパスバルブを調整する。

運転操作

▲ 注意

農薬は人体に危険を及ぼす恐れがある。

- ・ 農薬を使う前に、農薬容器に張ってあるラベルをよく読み、メーカーの指示を全て守って使用する。
- ・ スプレーを皮膚に付けない。万一付着した場合には真水と洗剤で十分に洗い落とす。
- ・ 作業にあたっては保護ゴーグルなど、メーカーが指定する安全対策を必ず実行する。

制御装置

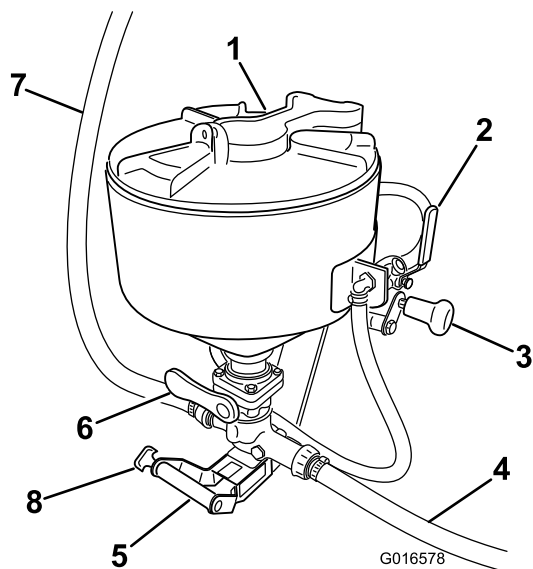


図 31

- | | |
|-------------|---------------|
| 1. 蓋 | 5. 下ハンドル |
| 2. フラッシュバルブ | 6. メイン・バルブ |
| 3. 上ハンドル | 7. タンクホース |
| 4. 給液ホース | 8. 移動走行用ストラップ |

蓋

蓋は左に回すと開きます。閉めるときは、完全に閉じてから右に回してロックしてください。移動位置に持ち上げる時には蓋は閉じておかなければいけません。

ハンドル および移動走行用ストラップ

通常は移動走行位置に格納しておき、エダクタを上下に移動するときにはこれらのハンドルを使います。

メイン・バルブ

エダクタに入れた薬品を、ホースを通じてメインタンクに送る時にはこのメインバルブを使用します。

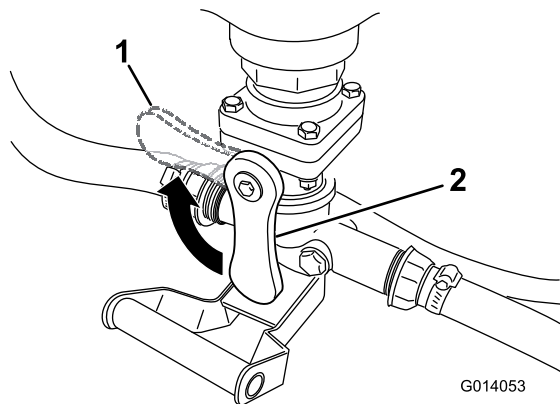


図 32

1. メインバルブ(閉位置) 2. メインバルブ(開位置)

ボトルリンス(薬剤容器すすぎ)

エダクタタンクの内部にあります。エダクタ・スイッチを ON にすると、このすすぎ装置が加圧されてメインタンクからの液が送られてきます。薬剤が入っていた容器をさかさまにし、容器のフチの部分を使ってリンスの口を押してください。押すと、口から液が出てきて、薬剤容器の内部をすすぎ洗いすることができます。

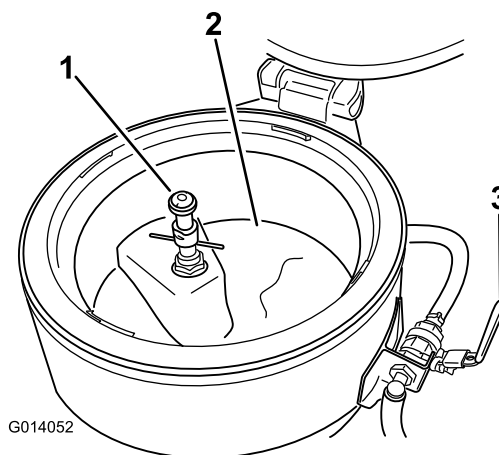


図 33

1. ボトルリンス(薬剤容器すすぎ) 3. フラッシュバルブ
2. エダクタタンク

フラッシュバルブ

フラッシュバルブは、エダクタタンクの内部をすすぎ洗いするためのバルブです。エダクタスイッチを ON にすると、このバルブが加圧され

てメインタンクからの液が送られてきます。すぎを開始するには、ハンドルを左に 90 度まわします。タンクからの溶液がエダクタ内部に入ってきます。バルブを閉じるには、ハンドルを右に 90 度回してください。

エダクタスイッチ

ダッシュボードにあって、バルブ・アセンブリブロックにあるエダクタバルブの ON/OFF を行うスイッチです。スイッチを入れると、ポンプからの圧力によってタンク内にある液をエダクタに送ります。このスイッチは、エダクタを運転位置（低い位置）に完全に降ろしてから使うようにしてください。そして、エダクタを移動位置（高い位置）に動かすときには、スイッチは OFF にしてください。

重要 移動位置ではエダクタを動作させないでください。エダクタが移動位置（高い位置）にあるときにスイッチの操作を行うと、破損する恐れがあります。

エダクタの上昇と下降

エダクタを下降させるには

1. 移動走行用ストラップ（ゴム製）を外す。
2. 低い方のハンドルを片手で握り、高い方のハンドルをもう一方の手で握ります。
3. 機体からエダクタを持ち上げるとスプリングクランプが外れてきます。
4. 手で補助しながら、エダクタを「運転」位置に降ろします。

エダクタを上昇させるには

1. 下側のハンドルを持って、エダクタをタンク側に少し倒しながら持ち上げてください。
2. クロスバーの下にトングを通します（溶接されているタブがフレームアセンブリの上部にくるように）。
3. 次に、アセンブリをタンク側に倒してスプリングクランプとフレーム下部の大きいピボットハウジングとを整列させます。
4. そして、その位置から押して、クランプをピボットハウジングにはめます。
5. 最後に、移動走行用ストラップでハンドルを固定してください。

停止モードで作業中にターフを傷つけないために

重要 スプレーヤを停止させた状態で作業中に、エンジンやラジエター、マフラーなどからの熱が原因でターフを傷めてしまう可能性があります。停止モードとは、走行しないで攪拌だけを行う、ハンドガンで手撒きする、歩行型ブームで手撒きするなどを言います。

以下の注意を守ってください：

- ・ 酷暑の時期や極めて乾燥している時期にはターフが大きなストレスを受けているので、ターフ上に停止して散布するのは**避ける**。
- ・ 停止モードで作業する時には、**ターフの上に停止しない**ようにする。可能な限り、カートパスなどに停車する。
- ・ ターフ上に停車する時は、**停車時間をできるだけ短く**する。ターフへの害は温度と時間の両方が影響することを忘れないようにする。
- ・ エンジンの**回転速度をできるだけ下げ**、必要最小限の水圧と水量で作業する。これにより、発熱をできるだけ小さくし、また冷却ファンからの熱風をゆるやかにすることができる。
- ・ 停止モードで作業するときには、エンジンの**熱をできるだけ上に逃げる**ようにエンジンガード&運転席アセンブリを倒し、車体上部に通風領域を確保する。運転席の倒し方についてはオペレーターズマニュアルを参照のこと。

注 熱の害が心配される場合には車両の下に防熱ブランケットを敷く。ターフ・スプレーヤ用防熱ブランケットは、トロの代理店で入手することができる。

エダクタの使い方

ここで説明する操作手順は、以下の準備ができていないことを前提としております：スプレーヤのエンジンが作動しており、ポンプが作動していて希望する水圧を発生させており、スロットルが中間位置にセットされている。

スタートアップ

1. 作業開始前に、エダクタのバルブすべて（ホッパーバルブとホッパーリンス用ボールバルブ）を閉じておく。
2. ふたを開けて、内部に異物（流れを妨げる可能性のあるものや薬剤を汚染する可能性のあるもの）がないか調べる。

3. ふたを閉じ、カバーを右に回してふたをロックする。
4. ダッシュボードにあるエダクタスイッチをONにする：ポンプのフローの一部がエダクタの送水ライン（タンクへ送るライン）へ入ってくる。
5. プロコントロール XP が搭載されている場合には、これを手動モードに切り替える。ダッシュボードにある散布率調整スイッチを操作して、水圧計の読みが 50-80 PSI (3.5-5.6 kg/cm²) になるように調整する。もっと高い水圧が必要な場合（たとえば吸い込み棒を使うとき）には、ポンプについている攪拌絞りバルブをゆっくりと絞っていく。

注 このバルブを絞ると、システムの水圧が最大仕様水圧を超えて上昇することがあるので十分に注意してください。

6. ホッパー上部についているホッパーバルブ（赤いハンドル）を開く。
7. カバーを左に回してふたのロックを解除し、ふたを開ける。

ホッパーに薬剤原液または粉剤を投入する

1. 必要量の薬剤をホッパーに投入する。薬剤（原液や粉剤）をホッパーからこぼさないように注意する。
2. 必要に応じて、薬剤原液の容器などを洗浄する。容器リンス用バルブに容器の口を押し当てる。これによりリンスバルブが開いて容器の内部が自動的に洗浄される。
3. ふたを閉じ、カバーを右に回してふたをロックする。ホッパーリンス用ボールバルブの安全ロックバンドを外し、バルブを約20秒間開いてホッパー内部の洗浄を行う。ボールバルブを閉じ、ロックバンドを掛けて格納する。
4. ふたを開け、きれいに洗浄されているか点検する。必要に応じて上記の手順3を繰り返す。
5. ホッパーバルブ（赤いハンドル）を閉じる。

吸い込み棒を使用して薬剤原液(または粉剤)を投入する

注 棒の吸い込み能力はエダクタの圧力および流量によって変わります。圧力を 150 PSI (10.5 kg/cm²) を超えない程度に設定するとスムーズです。

1. 吸い込み棒の本体部を、ホッパーのドレン部のOリングシールのところまでエダクタに入れる。

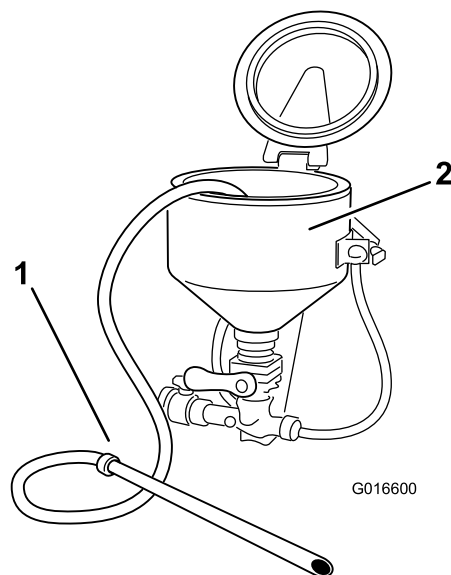


図 34

1. 吸い込み棒
2. エダクタ

2. 棒の開放側を使って薬剤の袋や容器に穴を開けて吸い込みやすくする。
3. 吸い込みが終わったら、棒の先端部をバケツに入ったきれいな水に入れて洗浄する。
4. 棒本体部をエダクタから外し、棒内部に残っている薬剤をホッパー内部に出す。
5. ホッパーバルブ（赤いハンドル）を閉じる。

終了手順

1. 以下を確認する：
 - ・ 全部のバルブが閉じてある。まずホッパーバルブを確認する。
 - ・ きれいに洗浄されて薬剤は残っていない。
 - ・ ホッパーのふたが閉じてあり、カバーがロックされている。
 - ・ 攪拌絞りバルブが全開設定に戻されている。
2. エダクタのスイッチがOFFになっている。
3. エダクタを移動走行位置に戻し、ストラップで固定する。

故障探究

問題	考えられる原因	対策
吸い込みが悪い	<ol style="list-style-type: none"> 1. フローや水圧がエダクタに十分供給されていない 2. 出口/入り口ホースが詰まっている 3. エダクタの出口部分にエルボ付きのフィッティングなど流れを阻害するものがある 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ポンプ速度を上げる攪拌絞りバルブを閉じる側に回す 2. 分解して異物を除去する 3. 柔らかいホース以外は使わず、ホースは振りながら使用する
すすぎや洗浄ができない	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボトル洗浄ノズルが詰まっている 2. 洗浄用ティーが詰まっている 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ノズルの回転部を分解して(下側のバルブアセンブリから外す)水洗いして目詰まりを除去する。 2. ティーを外して水洗いで詰まりを除去する。
フィッティング部分で漏れる	<ol style="list-style-type: none"> 1. フィッティングが破損している 2. ねじ山シールが劣化している 	<ol style="list-style-type: none"> 1. フィッティングの割れを点検し、必要に応じて交換する 2. 分解し、接合部のシールを除去して新しいシールを巻く。

メモ:



Count on it.